

足立ギルド運送店

運転者自ら労務管理

新たな運送会社の在り方

【東京】足立ギルド運送店（藤田武利代表社員、東京都足立区）は、ドライバー自らが労務管理などを手掛ける新たな運送会社としての在り方に挑んでいる。デジタルソリューションなどを活用しながら経理業務などの省力化に努めつつ、労務管理や安全管理などをドライバーが自ら実施。一人ひとりが「会社を営む」意識を持ち、より生産性の高い経営を進めることで、ドライバーの所得アップや地位向上につなげていく。

（井内亨）

「会社を営む」意識

同社は、伝三郎商会（藤田理事長）が行う起業支援事業「Gサポート」の一環として、独立志望のあるドライバーを集め、合同会社として2018年2月に設立。一般貨物自動車運送事業の許可を受けて19年6月に営業を開始した。2トントン車

と3トントン車を有しており、現時点ではドライバー5人で運営している。

・総務についてはクラウドシステムといったデジタルツールを活用することで、できる限りの省力化とコスト化を実現する。こうして取り組みを通して、デジタル機能をうまく使いこなすことができる。例えば、コストを抑えることなどが可能だ。

（井内亨）



得向上や新たな働き方を実現したい」と話している。

点呼では、ドライバーを

車両をより効率的に活用することができる、必然的にドライバーの給与も増える」と話す。

今後、更なる独立志望のドライバーを集めて20～30人程度の規模にまで拡大させる方針。同時に、次なる運送会社の設立に向けた準備も進めていく構想だ。

また、営業面では、伝三郎商会が運営する求荷・求車システム「Gワークス」を活用。9月6日～10月6日で122件の業務を受注したという。Gワークスの一つの機能として実験的に共同配送に取り組んでおり、ギルド運送店が輸送を担っている。

藤田氏は「ドライバー全員が自主的に法令や労務管理、安全管理を勉強して実践できるようにならなければならぬ。ドライバーには新しい働き方・仕組みをつくっている一員として認識して欲しい。格好良い姿として捉え、やりがいを感じてもらえばうれしい」と話している。

ドライバー全員の運行管理者資格の取得を目指す

藤田氏は「Gワークスとして捉え、やりがいを感じてもらえばうれしい」と話している。